

成町の家

設計 (株)みずほ建築事務所+大黒俊平
施工 直営
所在地 石川県白山市

白山市内の新興住宅地内にこの住宅は建っている。
この敷地は造成されたばかりの住宅地の一角にあり、近隣にはやはり建てられたばかりの無造作な住宅群がある。
独立性を保ちつつ、雑然とした周辺環境に対し、道路面からの建物の後退、シンプルな形態と構成により、良質な住環境の永続的保全と美しい景観の形成に寄与できる事をめざした。
4.5間×5間の矩形ヴォリュームは周辺環境と隔絶しながらも、前面道路、プライベートな外部空間との距離を意識しながら配置されている。

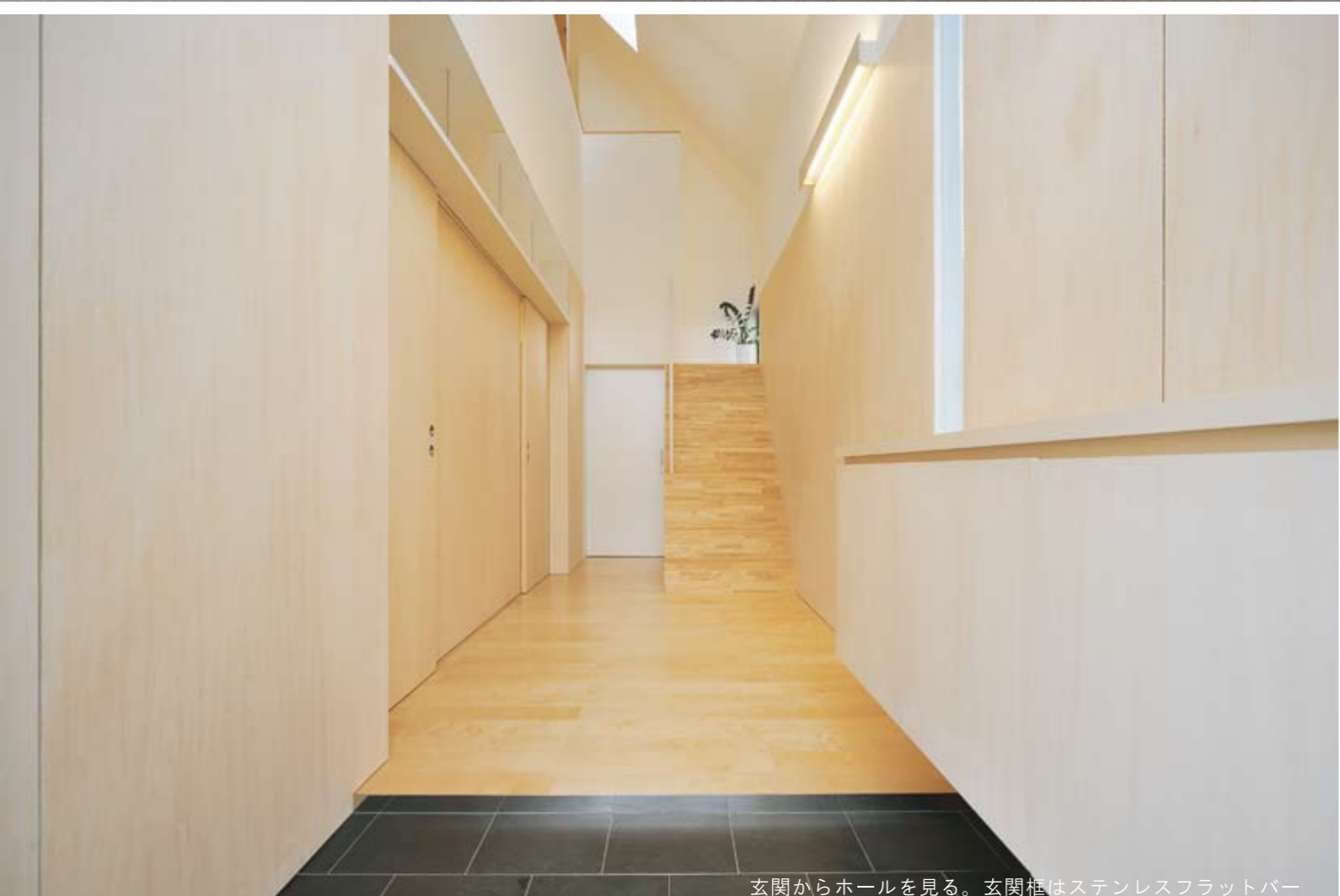
建築の形態はシンプルで、端正な表現とすることを目指した。家を包み込む、屋根、壁は黒の表現、外部から人や光、風を呼び込む部分は、欠き込まれた白の表現としている。家を包み込む屋根の表現として、北側の屋根を矩勾配としている。これは、内部空間の気積、外壁量を減らすというコスト面からの考えでもあった。
黒と白の明確な表現をより劇的なものとするために端部の納まりや庇の検討は、既存の納まりを再考することから始まった。その結果、軒先や出隅、端部のディテールは極限まで削ぎ落とされ、建物に端正な表情を作り出している。



正面より見る。板葺や開口部、庇などが街並みに対して注意深く挿入されている。



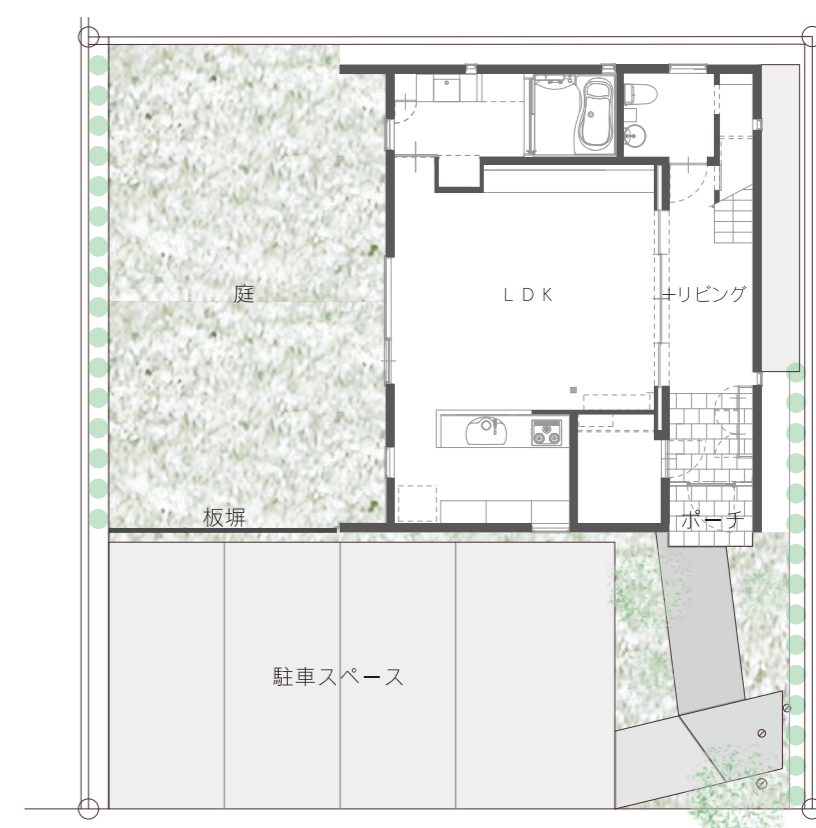
アプローチより見る。端部の納まりには垂鉛メッキのフラットバーとアングルが採用されている。



玄関からホールを見る。玄関扉はステンレスフラットバー



リビングを見る。テレビの背面の壁には間接照明が仕込まれている。



配置図 1/150



玄関ドアを開けると天井高4.5mの空間がまっすぐ奥へと広がっている。
この空間は冬季のアウトドア用品のメンテナンススペースを兼ねて設けられたが、季節のいい時期はリビングと間仕切っている扉を開け放つとリビングがホールまで拡張される。ホールにはリビング天井高さまでシナベニヤを施すことにより、玄関からの奥行きを生み出すと同時に拡張されたリビングに心地よい重心を与えている。
このホールは通風などの機能面でも役立っているが、限られた広さでありながら、ゆとりある空間が生む豊かさを創出している。
また、閉めきっている状態でも階段を上り下りする様子が欄間にはめ込まれたガラスを通し、リビングに伝わる。



外構や植栽などの工事に積極的に参加する施主

